

みやこんじょ



No. 36

発行日 2014年9月1日
 発行 独立行政法人国立病院機構 都城病院
 宮崎県都城市祝吉町5033番地1
 TEL 0986-23-4111

基本
 理念

高度で良質な医療を提供し、病む人々が安心して、信頼できる病院をめざします

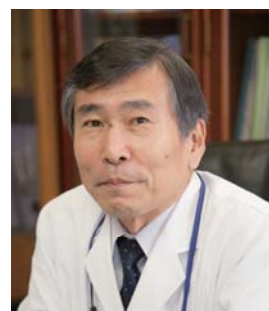
戦後69年目の夏

病院長 井 口 厚 司

広島に原子爆弾が投下されて69年目の8月6日、12名の中学生を病院に招きました。これは夏休みを利用して、小学生や中学生に医療体験をしてもらうことによって、人体のしくみ、健康や病気についての知識を身につけ、医療に対する親しみを持たせようという企画です。全国のいくつかの病院でもこのような職場体験の受け入れは行われているようですが、当院では地域の子供たちに将来の医療人を目指すきっかけにもなってほしいとの考えから、「説明を聞いたり見学するだけでなく、実際に自分たちでやってみる」ことに主眼を置いたものになりました。1日目は中学生を対象に、そして2日目は小学生を対象にしてプログラムがつけられました。その最初の日がちょうど8月6日となったのです。ところが、その日の朝NHKテレビを視ていてとても憂鬱になりました。というのも、長崎で被爆し、その後ずっと語り部として活動してこられた森口さん(77歳)が、修学旅行で長崎市を訪れていた横浜市の公立中学の男子生徒から、話を始めようとした際に「死に損ない」と暴言を吐かれたという話題が放送されていたからです。後日学校から正式な謝罪があったとのことですが、感情的な言葉は人間誰でも決してないとは言えないかも知れませんが、許されることのできない一定ラインを超える暴言は人としてあまりにも悲しくなります。

そんな思いで朝体験ツアーの会場に行きましたが、参加した子供たちの笑顔と純粋な言葉に出会って持っていた憂いは消し飛んでしまいました。まだまだ、大部分の中学生は人の痛みがわかる清廉潔白な心を持っているのだと安心しました。引率の校長先生が生徒たちに優しく愛情をもって話しかけている姿を見ると、最近世間を騒がしているごくごく少数の子供たちの問題は

「親を含めて周囲の人々の子供たちへの愛情が足りないのでは」と考えてしまいました。体験ツアーは2日間とも子供たちの笑顔と準備してくれた当院のスタッフの協力のお蔭で大成功に終わりました。子供たちとの触れ合いの大切さを確信し、今後もこの企画を続けていきたいと強く感じました。



当院はこの10月に日本医療機能評価機構の病院機能評価を初受審します。現在、すべての職員が一団となって鋭意準備を進めているところです。機能評価は受かるために受けるのではなく、受けることで病院の質向上につながる改善が得られることに意味合いがあると思っています。恐らく職員の多くは、昨年6月の機能評価受審キックオフを行ったその日から受審を1か月余りに控えた現在まで、院内の構造・過程・結果の医療の質の3要素とも大きく変わってきていることを実感しているものと思います。審査結果はともかく、すでに機能評価受審の最大の目的は少しずつ達成できているのではないのでしょうか。とは言え、できれば審査に合格して皆の力で勝ち取った認定証を院内に掲げたいものです。

戦後69年、国を守るため戦地に赴き命を落とした方、戦争で犠牲になった多くの国民、そして生き残って国をつくってきた方々、この国の現在の発展はこれら大勢の人々に支えられて存在します。いま機能評価受審を目指して努力してくれている全ての職員の力の結集は、今後長く続く当院の質の高い医療の礎、支えとなります。皆様方のご協力よろしく申し上げます。

第1回 歯科診療における病診連携の夕べ

平成26年5月28日午後7時より都城病院教育研修棟にて第1回歯科診療における病診連携の夕べが開催されました。講演に先立ち都城病院井口厚司院長より都城病院がん患者のQOL向上のためには地域歯科開業医との連携が必要不可欠となること、都城市歯科医師会田口健会長より地域歯科医師も同様に医科歯科地域連携がこれからの課題であること、また、宮崎県歯科医師会常務理事錦井英資先生より歯科医師会として適切な周術期口腔機能管理の担い手としての歯科開業医を養成していることについて挨拶、説明が行われました。続いて、講演1「当院における医科歯科連携の実績と都城病院における今後の展望」として歯科口腔外科新屋俊明医師より都城病院での周術期口腔機能管理計画策定件数が平成24年度は月平均14件、平成25年度は月平均26件と増加傾向を示したこと、疾患部位別では呼吸器、消化器、頭頸部、造血器、泌尿器が多かったこと、口腔管理が功を奏した具体例の呈示、入院前、退院後は地域歯科医師との連携が不可欠なこと等が述べられました。講演2「九州医療センターにおける口腔ケアの医科・歯科地域連携」として九州医療センター歯科口腔外科医長吉川博政先生から平成24年7月からの1年で283件の口腔管理を実施したこと、その内訳は129件は九州医療センターで実施し、154件は地域の歯科診療所へ管理を依頼されたことが述べられました。また、医科歯科共通の口腔機能管理計画書を独自に作成し、地域連携歯科が希望するテーマで勉強会を数多く実施されてきたことが全国でもトップレベルの医科・歯科地域連携を達成されたものと推察されました。両講演で強調された「病院歯科での周術期口腔機能管理の具体的内容は一般の歯科医院での治療内容と大きく変わらない」は都城地区での医科歯科地域連携を推進する契機となると思われます。当日は、院外からは歯科を中心に34名、院内から60名と多職種が参加し歯科口腔外科田畑雅士部長の司会進行のもと活発な討議も行われ盛大で有意義な講演会となりました。



(文責 歯科口腔外科 新屋 俊明)

マラソン完走



都城病院マラソン部です。6月8日に第一回の企業対抗100キロリレーマラソンに出場しました。左の写真は今年の我々のゴールシーンがホームページとなりました。今年54チーム中50位でしたが、制限時間の9時間をクリアし、8時間23分でゴールできました。1週2キロのコースを走り、たすきをつなぐリレーマラソンで、皆で合計100キロを走りました。

また、秋から綾、青島太平洋、菜の花、人吉などのマラソン大会に参加します。



(文責 歯科口腔外科センター長 田畑 雅士)

ふれあい看護体験2014

7月31日に都城市内の高校2・3年生19名（男子2名、女子17名）の参加による「ふれあい看護体験」が行われました。この「ふれあい看護体験」は看護ケアや看護の心、看護師の仕事の理解を深めることを目標に毎年行われています。参加された19名の高校生のみなさんは初めての白衣を身に着け、緊張した表情で1～5病棟に3～4名ずつ配置されました。各病棟では看護業務改善検討委員の計画に沿った各計測や移動動作、清潔援助、新生児室の対応などの経験や、患者の皆様とのコミュニケーションを通して、「ふれあい看護体験」を楽しんでいる様子が伺われました。



体験後、座談会が行われ「看護師の大変さや、喜びなど、とても貴重な体験をすることができた」「高齢の方と関わることの難しさを感じ、看護師の患者さんとのコミュニケーションの取り方に感心した」「将来、看護師助産師を目指したい。医療に関する職業への魅力をたくさん感じた」など一人一人感想を述べられました。また、経験した内容は配置病棟で違いましたが、グループ間で共有ができ病棟の特殊性など、当院をより理解でき、多様性のニーズに対応する看護師という職業の役割の重さを感じていたようでした。座談会や終わりの会では、体験した一日を映像で振り返り、短い時間でしたが各々が看護師の仕事をしっかりと見つめ、看護職を真剣に自分の方向性としてとらえていたことが印象的でした。

今回の経験によって、看護師を身近に感じ、一人でも多くの高校生が看護師という職業に興味を持ち目指してくれることを願いたいと思います。

（文責 看護業務検討委員会委員長 鳥丸 草子）



2年目のぼんち祭りに参加して

昨年に引き続き今年もぼんち祭り総踊りに病院職員約90名で参加しました。今年は、本番前日、1病棟ラウンジにて踊りのお披露目会を行い、沢山の入院患者さんへ踊りの完成度を見て頂くことができました。本番当日は、悪天候の中の開催で、一時は前が見えないくらいの大雨で、うちわはボロボロ、メイクはドロドロ状態になりながらも、参加者全員で最後まで華麗に踊りきることができました。

今年のテントブースは、救急車体験で子供が助手席に乗り記念写真撮影をしました。普段乗ることのない救急車に乗れるとあって、子供たちからは歓喜の声が聞かれました。また、救急車内外で行ったABI検査、一酸化炭素濃度測定検査は、沢山の方が参加され都城市民の方々の健康意識の高さに感激しました。



路上では、病院のうちわ、キャンディーを配布し都城病院のことをたくさんの市民の方へアピールすることができました。準備から後片付けまでたくさんの方々に御協力頂きありがとうございました。また、来年もたくさんの方に参加していただきたいと思います。

（文責 OP・中材看護師長 北野 喜恵）

新生児医療センターのご紹介

当センターはNICU（新生児集中治療室）6床、GCU（新生児治療回復期室）6床の病棟で、常勤小児科医4名（小児科との兼任）、看護師25名（小児科・産科との兼任含む）で運営しております。

昨年までは軽症の児を中心に受け入れていましたが、今年度より軽症から中等症の児を受け入れていきます。また、宮崎大学や近県のNICUと連携をとりながら24時間体制で救命救急のための高度専門医療に取り組んでいます。

今年度はじめより、早産児管理、人工呼吸器管理、先天異常を認める児の全身管理など、様々な病態の赤ちゃんが入院されています。赤ちゃんは外見では病状の変化が分かりにくく、自身で症状を訴えることができませんので、とくに急性期は常に厳重なモニタリングや適時に適切な検査が欠かせません。さらに病棟内の音や光環境、ベッドメイクなど、赤ちゃんが安心して安全に医療を受けられる工夫を行っています。

そして急性期を脱した後は、赤ちゃんが順調に成長し、退院後の生活がスムーズにいくように院内外の関連各機関と連携をとりながらサポートしています。

また、ご家族にとっては、楽しみに待っていた赤ちゃんの思いがけない入院で、ご心配やご不安が大きいと思います。集中治療に平行して、ご家族の気持ちに寄り添い、カンガルーケアや母乳育児など愛着形成のための取り組みも行っています。

（文責 周産期・母子医療 副センター長 横山 晃子）

職場体験ツアー

8月6日～7日の2日に亘り、中学生と小学生の職場体験ツアーを行いました。この職場体験ツアーは、子供たちが将来、医療従事者を目指してくれることを願って、今年初めての試みでした。地元の中学生12名と小学生10名の参加がありました。中学生は医師のお仕事体験の“ブラックジャックコース”と看護師のお仕事体験の“ナイチンゲールコース”を行いました。小学生は“ブラックジャックコース”を行いました。術衣を身につけシミュレーターでの内視鏡手術体験をはじめ、本物の注射器と針を使っての採血を行いました。また、井口院長指導のもと手術用ガウンと手袋をつけ、本物のメスをうい切開縫合を体験してもらいました。その他にもAEDを使って心肺蘇生体験、心電図検査や顕微鏡で赤血球やがん細胞の観察をしてもらいました。体験終了時には“メディカルキッズ”の認定バッジと修了証書が渡されました。“はじめての体験でとても楽しい”と言いながら、生き生きとした表情でした。「医療従事者の仕事を体験できて、自分の将来の選択肢としたい」と感想を残してくれました。貴重なひと夏の経験になってくれたと思います。そして、将来都城の医療、日本の医療を支える立派な医師や看護師になってくれることを願っています。

（文責 副看護部長 三島 潤子）



地域医療連携室案内

地域医療連携室は、病診連携や病病連携を行って行くためのパイプ役を担っており、病院の窓口ともいえる部署です。

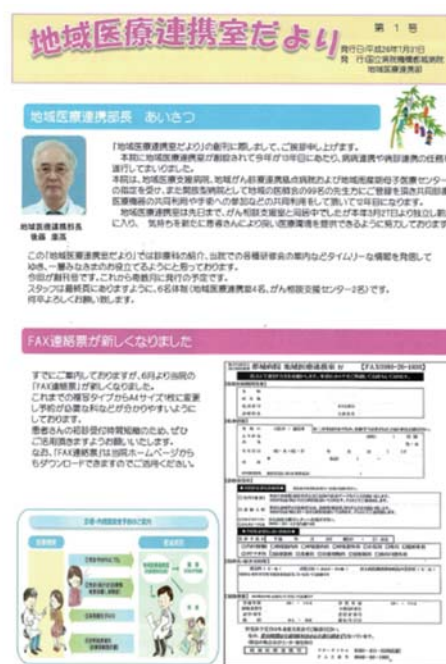
紹介患者さんの予約受付や統計業務、入退院支援、福祉に関する相談など地域医療機関、介護福祉施設などとの連携を図りながら業務を遂行しています。

前号でもお伝えしましたとおり今年4月、当室は食堂前に移転しました。明るく静かな環境のもと、患者さんにとっても気軽に相談できる窓口であるよう心がけています。

また、7月には「地域連携診療のご案内」、「地域医療連携室だより」を初めて発行しました。「地域医療連携室だより」では診療科の紹介や各種研修会、当院の取り組みなどタイムリーな情報を発信していくことが目標です。

定期的に発行していく予定ですのでご一読頂ければ幸いです。

今後も地域医療機関との更なる連携強化に努めていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。



(文責 地域医療連携室 医療社会事業専門員 和田智美)

がん相談支援センター案内

がん相談支援センターとは、がん診療拠点病院に設置されている「がんの相談窓口」です。ここでは、がんの専門相談員が、患者さんや家族あるいは地域の方々に、がんに関する情報の提供や、がんと言われて不安でいっぱい、気持ちを聞いてほしい、医療費について、セカンドオピニオン等の相談にお応えしています。又、患者家族が安心して在宅療養に移行し、生活できるように院内、



地域の関係職種との連携、窓口の役割もあります。がん専門相談員とは、がん相談支援センターには必ずいる専門家で、当院では医療社会事業専門員と看護師が担当しております、相談は無料です。

地域の医療関係者の方々、行政の方々と手を取り合い、地域とがん相談支援センターのつながりを強化して“がんになっても安心して暮らせる街づくり”をめざしていきたく考えています。お困りな時は、ぜひがん相談支援センターをご利用ください。

(文責：がん相談支援センター がん専門相談員 佐藤 洋子)

外来診療管理棟新築工事が始まりました

工事期間中ご迷惑をおかけしますが、みなさまのご協力をお願いします。

今後の予定は下記のとおりとなっております。

- H26.10 初旬 仮設歯科口腔センター完成
仮設更衣棟完成
歯科口腔センター解体
- H26.10 下旬 救急車・公用車車庫完成
- H26.11 下旬 外来診療管理棟本体工事開始
- H27.11 初旬 外来診療管理棟完成
外来既存棟解体
- H28.3 下旬 食堂棟完成
- H28.6 下旬 外来駐車場完成



(文責 業務班長 亀之園 照彦)

入院支援センター

入院支援センターは、平成25年9月1日に開設し、1年が経過しました。

入院支援センター(以後 当センターとする)開設より「患者家族に入院予約の時点から各職種が連携して必要な情報収集や情報提供を行い、入院までの心と体の準備や、不安の軽減など、早期ケアができる。」を目的とし、主に入院時に持参して頂く物品の説明、入院書類の内容説明を軸に活動してきました。

当センターの活動の充実を図るため、当センター看護師と事務にて対応できる事に努め、各科医師や外来看護師他、他部門の協力を得ながら、お互いに情報交換し連携を図ってきました。

その中で当センターをご利用の患者さんの中には、初めて告知を受け手術が決定した患者や家族がいらっしゃいます。お話を伺い、必要な方へはがん相談支援センターの介入を実施したり、心の整理がつかない方へは情報提供し利用をお勧めしています。

また初回の放射線治療や化学療法の方には認定看護師へ依頼し、入院時説明とともに介入していくことで、帰りには笑顔で帰られることもあります。

入院が決定した患者の皆様に入院前から患者情報、家族背景など伺い、病棟での看護に少しでも役立てられるよう努めております。

おかげさまで、患者さんと家族から得た情報を生かし、外来で対応できること入院してから対応していくことなどの他部門との調整が充実してきています。

一度利用された患者さんは、再度自らご利用いただくことや、電話での相談に来られることなどもあり、入院支援センターの役割が広がってきたと感じています。

特に事務による入院書類の説明に関しては、必要な方へは一緒に記入を行ったり、限度額認定の申請法やわからない方には「わかりやすい説明ありがとう。」「こんな所があっよかった。」などと声をかけていただいております。

入院に関してのみならず、どこに相談していいかわからないと来られる方も多く、声をかけやすい場所になっていると感じております。

これからも、他部門との連携を更に充実させ、患者の皆様により良い入院生活のためにお役に立てるよう精進していきたいと思います。(文責 入院支援センター 看護師 大坪 ひろえ)

アルバイト学生大活躍

都城病院では、初めてアルバイトの募集を行いました。
 きっかけは、井口院長の「当院の学生はいろんなところにアルバイトに行っているよ。大変だね。看護部でアルバイト募集したら、たくさん来るよ」との声かけでした。
 早々に、都城病院附属看護学校に許可をいただき、2年生・1年生を対象にアルバイトの説明をしました。
 看護学校が夏期休暇に入った途端、21名の学生さんが、アルバイト生として、環境整備や清潔ケア援助やリネン交換など、手伝ってくれています。
 ユニホームは、学生さん達に色を選んでもらったブルーのTシャツと、ミフィープリントのエプロンにしました。とてもかわいくて、入院中の患者さん達からも好評です。
 私は、アルバイト生達は、患者さんのベットサイドで、ゆっくりとお話の相手をしているのかと思いきや、病棟狭しと、スタッフよりも動いてくれています。
 どの学生さんも、元気で楽しそうで、何よりです。患者さん達もうれしそうに話しかけてくれます。
 学生さんは、このアルバイトを通して、大きな自信をつけたようです。そんな風に話してくれました。病棟もアルバイト生のおかげで、助かっていますとのことでした。ありがとうございました。この経験を次に活かしてほしいですね。
 (文責：看護部長 音成 佐代子)

独立行政法人国立病院機構
都城病院

都城病院 アルバイト募集

場所：都城病院 各病棟
 対象：看護学生
 期間：看護学生の夏休み期間中

主なアルバイト内容
 1.療養上の世話や話し相手
 2.環境整備

アルバイト時間
 9:00から15:30まで
 週 3日まで

アルバイト料
 1日 5,100円

募集要項
 1.履歴書持参
 2.面接

お問い合わせ
 TEL: 0986-23-4111 (副看護部長 三島潤子)
 FAX: 0986-24-3864
 独立行政法人国立病院機構 都城病院



オープンキャンパスを開催いたしました。

看護学校では、6・7・8月にオープンキャンパスを開催いたしました。今年度も多くの方にご参加いただきました。

今回は、学校紹介に加え、老年看護学・母性看護学・基礎看護学の看護技術を在校生とともに体験していただきました。毎回ご好評いただいている在校生との懇話会も、

ご多忙中の中にご参加いただき、誠にありがとうございました。

公開講座2014

「看護学校ってどんなところ？」

日時：平成26年9月27日(土)
 13:30～15:00

対象：高等学校・中学校教諭
 高校生・中学生

看護師になりたいと思っているけど、どうすればなるの？看護師資格を取得したあとはどんなことができるの？皆さんの疑問にお答えします。どうぞご参加ください。

外来診療科別週間担当医当番表

独立行政法人 都城病院
国立病院機構

受付時間 8:30 ~ 11:00

【平成 26 年 9 月 1 日】

| 診療科名等 | | 月曜日 | 火曜日 | 水曜日 | 木曜日 | 金曜日 | |
|-----------------------|----------|-------------------------|-------------------------|-----------------------|------------------------------------|-----------------------|---------------|
| 内科 (血液内科は紹介予約制) ※1 | 初診 | 血液 加藤 順也 | 前田 宏一 | 休診 | | | |
| | 再診 | 前田 宏一 | 加藤 順也 | 前田 宏一 加藤 順也 | 前田 宏一 田 宏一 高 順也 智 一也 徳 | 前田 宏一 加藤 順也 | |
| | 下部消化管内視鏡 | | | | 橋本神奈(午後より) | | |
| 循環器内科 | 阿南 隆一郎 | 阿南 隆一郎 | 阿南 隆一郎 | | 阿南 隆一郎 | | |
| 呼吸器内科 | 後藤 康高 | 後藤 康高 | 後藤 康高 | 後藤 康高 | 後藤 康高 | | |
| 呼吸器外科 | 初診 | | 前川 信一 | | 前川 信一 | | |
| | 再診 | 手術日 | 前川 信一 加藤 文章 | 手術日 | 前川 信一 加藤 文章 | 手術日 | |
| 小児科 (午後は完全予約制) | 午前 | 1 診 | 榎木 仁 | 榎木 仁 | 今屋 雅之 | 並河 紳 | |
| | | 2 診 | 榎木 朋子 | 榎木 朋子 | 榎木 朋子 | 並河 紳 | |
| | 午後 | 1 診 | 榎木 朋子 | 横山 晃子(NICU週院児健診) | 並河 紳 | 横山 晃子 | 今屋 雅之(チューブ交換) |
| | | 2 診 | 今屋 雅之(一般乳児健診) | 並河 紳 | 今屋 雅之(一般乳児健診) | 榎木 仁 | 榎木 朋子 |
| | 3 診 | 榎木 仁 | 榎木 仁 | 榎木 朋子 | 今屋 雅之 | 榎木 仁 | |
| 外科 | 初診 ※2 | | | 後藤 又朗 | | 長井 洋平 | |
| | 再診 | 後藤 又朗 | 手術日 | 後藤 又朗 藏 元一 | 藏元又は長井 | 後藤 又朗 長井 洋平 | |
| 整形外科 | 第1診察室 | 税所 幸一郎 | | 手術日 | 吉川 教恵 | | |
| | 第2診察室 | 菅田 耕 | 吉川 教恵 | | 菅田 耕 | 吉川 教恵 | |
| リウマチ科 | | 税所 幸一郎 | 税所 幸一郎 (再診のみ) | 手術日 | 休診 | 税所 幸一郎 (再診のみ) | |
| 泌尿器科 | 1 診 | 手術日 | 山崎 丈嗣 | 山崎 丈嗣 | 米澤 智一 | 山崎 丈嗣 | |
| | 2 診 | | 井口 厚司 | 米澤 智一 | 上野 貴大 | 米澤 智一 | |
| 皮膚科 | | 中山 文子 | 中山 文子 | 中山 文子 | 中山 文子 ※3 | 中山 文子 | |
| 産婦人科 (紹介予約制) | 初診 | 徳永 修一 | ト部 浩俊 | 徳永 修一 | 永井 義雄 | ト部 浩俊 | |
| | 再診 | 永井 義雄 | 徳永 修一・ト部 浩俊 午後:ト部 浩俊 | 永井 義雄 | ト部 浩俊 | 徳永 修一 | |
| 耳鼻咽喉科 (難聴外来は予約制) | 一般 | 外山 勝浩 池上 あゆみ | 外山 勝浩 池上 あゆみ | 外山 勝浩 池上 あゆみ | 外山 勝浩 池上 あゆみ | 手術日 | |
| | 難聴外来 | 池上 あゆみ (14:00~17:00) | | | | | |
| 放射線科 | 初診再診 | 日野 祐一 | 新村 耕平 | 日野 祐一 | 新村 耕平 | 日野 祐一 | |
| | 放射線治療 | 新村 耕平 | 日野 祐一 | 新村 耕平 | 日野 祐一 | 新村 耕平 | |
| 歯科口腔外科 | | 田畑 雅士 新屋 俊明 西久保 | 手術日 | 田畑 雅士 新屋 俊明 西久保 | 田畑 雅士 新屋 俊明 西久保 | 田畑 雅士 新屋 俊明 西久保 | |
| がんサポート外来(予約制) ※4 | | 新村 耕平 | 新村 耕平 | 新村 耕平 | 新村 耕平 | 新村 耕平 | |
| 特殊外来 | | マザークラス (第二・四日曜日) | フットケア外来 | 助産師相談室 (午後) | 母乳外来 | ストーマ外来 (午後) | |
| | | | リンパ浮腫外来 | | リンパ浮腫外来 | | |

[その他の特殊診療]

| 診療科名等 | 月曜日 | 火曜日 | 水曜日 | 木曜日 | 金曜日 |
|-----------------------------|-------|------|----------------|-------------------------------|----------------|
| 内視鏡センター | 上部消化管 | 気管支 | 上部消化管 下部消化管 | 上部消化管 下部消化管(午後より器大) 気管支 | 上部消化管 下部消化管 |
| 透視撮影(胃) | 外科 | | 外科 | | |
| 骨塩ドック(骨粗鬆症検査)【予約制(14:00以降)】 | | 整形外科 | | 整形外科 | |

※1 医療機関の方へ：血液内科の初診については、事前にFAX連絡票と共に、最新の血液データを送って下さい。
 ※2 外科初診日(月水金)は紹介初診の患者様の診察は10時以降になります。
 ※3 皮膚科については、毎週木曜日に手術がはいることがありますので、事前のご確認をお願いします。
 ※4 ガンサポート外来については、事前にご連絡頂きますようお願いいたします。また各診療科の診察日以外については、急患のみ対応となります。
 ※ 紹介予約制および予約制については、事前にご連絡頂きますようお願いいたします。また各診療科の診察日以外については、急患のみ対応となります。
 ※ セカンドオピニオンの受診については、予約制となっております。地域医療連携室までご連絡頂きますようお願いいたします。

〒885-0014 都城市祝吉町5033番地 1 TEL (0986)23-4111 FAX【地域医療連携室】(0986)26-1893 FAX【代表】(0986)24-3864



独立行政法人
国立病院機構

都城病院 (地域がん診療連携拠点病院・地域周産期母子医療センター)

〒885-0014
 宮崎県都城市祝吉町5033番地1
 TEL/ 0986-23-4111(代表) FAX/ 0986-23-3864
 E-mail/ syomu-2@.hosp.go.jp http://www.nho-miyakon.jp

編集発行: 広報誌委員会